

2019年度 事業報告書

社会福祉法人 札幌この実会

2019年度法人事業報告

社会福祉法人 札幌この実会

2019年度も札幌この実会の取り組みが利用者一人ひとりのライフステージに応じた適切な支援になるよう、各事業所がそれぞれに求められる課題に取り組んできましたが、その一方で、8月の札幌市の実地指導に係る事案については改善状況報告書を提出し、再発防止に取り組むこととなりました。

福祉総合相談「みすくうえる」は、地域における公益的な取り組みとして日常の困りごとのお手伝いを行ってきましたが、これまでの実践を踏まえ、2019年度より自主事業としての地域貢献は残しつつ「相談室みすくうえる」として相談支援事業(特定・一般)の指定を受け、公的な相談支援を始めました。

また、利用者の高齢化等を見据え、「今後の地域の暮らしのあり方」として検討を重ねてきたグループホームの計画は、新築の専用の建物を賃借し、12月に「この実みなぼっけ」として日中サービス支援型共同生活援助及び短期入所の指定を受け一方、既存のこの実らいふネットは3住居減としました。この実わーくネットは、12月におりーぶ(生活介護)従たる事業所をみんなの家からサテライト2・6へ移転するとともに、1月から名称を「この実支援センター」に変更しました。グループホームで45名が転居(20名が事業所を変更)となるなど大規模な再編成でしたが、利用者の皆さんの協力と職員の努力により落ち着いたスタートを切ることができました。

1. 理事会・評議員会について

2019年度に実施した理事会並びに評議員会の状況は次のとおりです。

開催年月日	機 関	決議事項
2019年 5月31日	理事会	平成30年度事業報告及び決算の承認
		役員任期満了に伴う改選に係る役員候補者の推薦の提案
		新規グループホームの開設準備等の承認
		新規グループホーム等の給食業務委託
		グループホームに係る財産処分 定時評議員会の招集
2019年 6月15日	定時評議員会	平成30年度事業報告 平成30年度決算の承認
		役員任期満了に伴う次期役員を選任
2019年 6月15日	理事会	理事長の選定
		新規GH等の給食業務委託/プロポーザル募集要項等の承認
2019年 8月29日	理事会	札幌市の障害福祉サービス事業者等の実地指導について

開催年月日	機 関	決議事項
2019年 9月27日	理事会	2019年度の事業の再編成／計画の同意 管理者の任免
		新規GH等の給食業務委託／契約の締結 厨房機器の購入
		みんなの家(建物及び敷地)の売却 給与規程の改定
		2019年度補正予算の同意 評議員会の招集
2019年 10月12日	評議員会	2019年度の事業の再編成／計画の承認
		2019年度補正予算の承認
2019年 10月15日	理事会	処分決定の措置 札幌市への改善状況報告
		就業規則及び給与規程の改定
2019年 12月21日	理事会	2019年度(12月～)職員体制 課長会の役割
		この実わーくネットの名称変更 経理規程の改定
2020年 3月19日	理事会	2019年度補正予算の同意
		2020年度事業計画及び収支予算の同意
		2020年度職員体制 定款の変更の提案 諸規程の改定
		財産処分に係る改善状況報告 契約の自動更新の承認
		評議員会の招集
2020年 3月28日	評議員会	2019年度補正予算の承認 2020年度事業計画の承認
		2020年度収支予算の承認 定款の変更の決議

2. 監事監査について

2019年度に実施した監事監査は次のとおりです。

第1回 2019年5月28日(佐久間監事・小平監事)

第2回 2019年9月13日(小平監事) 9月17日(紺野監事)

第3回 2019年12月13日(紺野監事) 12月16日(小平監事)

第4回 2020年3月10日(小平監事) 3月12日(紺野監事)

3. 事業指定について

2019年度における事業指定(新規・変更)は次のとおりです。

(4月)

「相談室みすくうえる」、相談支援事業(特定・一般)の指定を受ける
りらつく、定員5名を6名に変更

この実らいふネット、サービス管理責任者を変更

(11月)

この実らいふネット、住居の減(グルッペ303廃止)により、11住居を10住居に、定員66名

を59名に変更

(12月)

この実わーくネット、おりーぶ(生活介護)従たる事業所をみんなの家からサテライト2・6へ移転し、定員を主たる事業所20名、従たる事業所20名に変更

この実らいふネット、住居の減(ケアホーム2・6、であいの家廃止)により、10住居を8住居に、定員59名を46名に変更

「この実みなぼっけ」、日中サービス支援型共同生活援助及び短期入所の指定を受け、1階に「らいむ」、2階に「ぷらむ」を開設、2住居、定員20名(GH19名、併設型SS1名)

この実サポートステーションすてっぷ、サービス管理責任者を変更

(1月)

この実わーくネット、「この実支援センター」に名称変更

4. 事業運営について

2019年度に実施した事業の運営状況は次のとおりです。

《この実サポートステーション》

■生活介護事業 この実サポートステーションすてっぷ

(定員)40人 (年間利用者延べ人数)10,123人 (平均利用者数)32.4人 (平均区分)4.5

(体制)福祉専門職員配置等 常勤看護職員等配置(12月まで) 重度障害者支援体制

食事提供体制 送迎体制

■短期入所事業 りらっく

(定員)6人 (年間利用者延べ人数)1,015人 (利用者実人数)34人

(体制)栄養士配置 食事提供体制

《この実支援センター》

■生活介護事業 この実支援センター おりーぶ

(定員)40人 (年間利用者延べ人数)10,055人 (平均利用者数)37.3人 (平均区分)4.4

(体制)福祉専門職員配置等 常勤看護職員等配置 重度障害者支援体制 食事提供体制

送迎体制

■就労継続支援B型事業 この実支援センター うえるなつつ

(定員)15人 (年間利用者延べ人数)3,179人 (平均利用者数)11.8人

(体制)福祉専門職員配置等 施設外就労 施設外支援

■共同生活援助事業 この実らいふネット

(定員)66人⇒59人(11月)⇒46人(12月～)

(共同生活住居)11ヵ所⇒10ヵ所(11月)⇒8ヵ所(12月～)

(年間利用者延べ人数)20,181人 (平均利用者数)55.2人 (平均区分)4.2

(体制)介護サービス包括型 福祉専門職員配置等 夜間支援体制

重度障害者支援職員配置 医療連携体制

■共同生活援助事業 この実みなぼつけ(12月～)

(定員)19人 (共同生活住居)2ヵ所

(年間利用者延べ人数)約2,169人 (平均利用者数)17.8人 (平均区分)4.9

(体制)日中サービス支援型 福祉専門職員配置等 看護職員配置体制

重度障害者支援職員配置

■短期入所事業 この実みなぼつけ(12月～)

(定員)1人 (年間利用者延べ人数)54人 (利用者実人数)2人

(体制)常勤看護職員等配置 栄養士配置 食事提供体制

《相談室みすくうえる》

■特定相談支援事業 相談室みすくうえる

(計画相談支援)22件

■一般相談支援事業 相談室みすくうえる

(地域移行支援・地域定着支援)0件

令和元年度事業報告の骨子

この実サポートステーション

1. 生活介護事業所「すてっぷ」

- 通所支援
 - ・送迎についてはルートの調整をしながら琴似、発寒、手稲の3便で事故なく運営できた。
- 日中活動（はた・ら〜く）
 - ・下請け、創作、散策、レクリエーションを組み合わせ、利用者ごとに多様な日中活動を提供することを目指した。散策については実施機会が限られたが、その他の活動は概ね滞りなく提供できた。
- 日中活動（盤溪・森林農場）
 - ・事故防止の必要性から、職員が必ず3名以上となるように配置した。
 - ・森林ウォーキングは保護者からの希望も多かったが、ダニの危険性があり冬期のみ実施している。
- 行事
 - ・道外旅行については、行程に余裕がとられており、体力に不安のある利用者への配慮がなされていた。1職員当たりの担当利用者を2名としたことで、安全面だけでなく楽しみもより多く提供できた。
- 地域との連携（朝市）
 - ・野菜の無料提供や目玉商品が無くなった影響もあってか、来客数が減少しており、売り上げも伸びなかった。運営方針についての見直しが必要な時期に来ている。
- 地域との連携（乗馬）
 - ・平日については、すてっぷ利用者の余暇活動として実施しており、法人内の他の事業所への参加募集はしなかった。日曜日に実施していた外部からの体験乗馬は11月をもって終了している。

2. 単独型短期入所事業所「りらっく」

- ・定員を、昨年度の5名から6名に増員している。定員の増員により、制度外利用の回数が減った。
- ・普段、すてっぷ利用者の宿泊利用が中心になっており、職員がそれに慣れてしまっているため、法人外からの利用者を受け入れた際に、円滑に手続きを進めることができなかった。本来の手続きの手順について、改めて確認が必要とされる。

2019 年度 この実支援センター 事業報告書 骨子

2019 年度のこの実支援センターは 12 月の法人内組織編成の変更により、「この実わーくネット」と「コミュニティライフこの実」と分割しました。更に 1 月には「この実わーくネット」を「この実支援センター」に名称変更しました。

生活介護「おりーぶ」と就労継続支援 B 型「うえるなっつ」は多機能型事業所の役割を更に明確にした取り組みを行ないました。

○ 生活介護「おりーぶ」

生活介護事業所の「おりーぶ」では、年齢や体力などを考慮した取り組みに重点を置き、作業は縮小する形で継続してレクリエーションや余暇活動といった楽しみの活動をより多く取り入れました。利用者からは午前中だけの作業や午後の余暇活動で「しいたけ作業で身体が楽になった」「余暇での活動で楽しみが増えた」などの体力的に楽になったことや余暇の活動が増えてうれしいなどの声が寄せられています。また、日中活動の一環として入浴支援は概ね好評で、大きな浴室でゆったりと入浴できとても良いとの話も聞かれ、リラックス効果にも繋がっております。

○ 就労継続支援 B 型「うえるなっつ」

就労継続支援 B 型事業所である「うえるなっつ」では就労を目指すものとしての取り組みを強化しております。見学に来所される方々には通いやすい所にあるとの評価もあり、また、高等養護の教諭の方々には就労、定着するための取り組みについても共感していただくことが出来ました。教諭から父兄への推薦もあり何件か在学生の実習を受ける事となり、うち 2 件は、令和 2 年 4 月の新規利用者に繋がっております。

就職者については 1 名が就職することが決まり、もう 1 名は内定を頂いて就職の準備をしており、今年度 2 名の就職者を出すことが出来ております。

2019年度 事業報告書

コミュニティライフこの実

日中サービス支援型共同生活援助事業所である「この実みなぼっけ」の開所に向けた準備のため、「集団であっても、利用者一人ひとりに合わせた生活が送れるように、個々のニーズに合わせた支援を行う。」という理念を重視した上で、現行のグループホームにおける支援のあり方や、食事や入浴の提供についての見直しなど継続可能な体制の検討を進めた。

また、令和元年12月1日の開所に伴いグループホーム全体の再編成を行い、共同生活援助事業所「この実らいふネット」と日中サービス支援型共同生活援助事業所「この実みなぼっけ」というグループホームの事業をこの実支援センターから独立させ、サテライト2・6の2階に事務所を構え「コミュニティライフこの実」が発足した。

I.この実らいふネット

令和元年12月1日の日中サービス支援型共同生活援助事業所「この実みなぼっけ」の開所に伴い定員を46名に減らして大きく体制の変更を行った。

就労している方から高齢の方や強度行動障害の方など手厚い支援が必要な方まで様々なニーズに応えるため、それぞれのホームに役割や特色を持たせて利用者1人1人に寄り添った支援を行う体制を組み立てた。

外出については、利用者にとって最も楽しみな活動でもあり、行動援護や移動支援といった外部の事業所との連携を強化した。

II.この実みなぼっけ

1階「らいむ」定員10名、2階「ぷらむ」定員9名と併設型短期入所1名の日中サービス支援型共同生活援助事業所を令和元年12月1日に開所した。

日中を「みなぼっけ」で過ごす方については、週に1度は外出の機会を設けるなど楽しめる活動を提供した。

短期入所については、法人内の利用者の利用があった。

2019年度 事業報告の骨子

札幌この実会 指定特定相談支援事業所

相談室 みすくうえる

社会福祉法人の地域貢献活動として取り組みの一つとして平成29年1月に福祉総合相談「みすく・うえる」を立ち上げ、障がいを持つ方やご高齢の方、ご家族の困りごと等を一緒に考え、地域における公共的な活動を展開していった。

相談件数が多くなってきた中で、平成31年4月に札幌市指定特定相談支援事業所「相談室みすくうえる」を立ち上げた。

今年度は主に計画相談を行い、新規5名、他の相談室からの移行13名、サポートステーション通所生のセルフプランからの移行が2名行った。他支援学校卒業生で令和2年4月より生活介護「すてっぷ」利用1名、就労継続支援B型「うえるなつつ」利用1名の利用計画も現在進めている。一般相談も何件かあったが、契約までには至らなかった。

サービス利用等計画作成にあたり、当事者の心身の状況や置かれている環境、利用に関する意向、その他の事情を勘案し、利用するサービスの種類及び内容等を定めた計画を作成するようになった。

モニタリングに関しては、決定された「支給期間」内において、支援が適切に受けられているか等を、定められた期間ごとに検証し、関係者と会議を行い、その結果や心身の状況、環境、利用に関する意向等を勘案して、サービス等利用計画の見直しを行う事とした。

令和2年2月に札幌市より新型コロナウイルス感染症の拡大防止について連絡があり一部の例に対して電話でのモニタリングが可能となった（令和2年3月15日まで）が、当事業所では、通常通り訪問してのモニタリングを行った。

今年度は他事業所の訪問が出来なかったため、来年度は事業所訪問に力を入れ連携をはかっていきたい。

2019年度 決算の概要

社会福祉法人 札幌この実会

2019年度の事業活動計算では、法人合計で収益が約4億2500万円(※1)の一方、費用が約4億4400万円(※2)となり、経常増減差額はマイナス約1800万円となりました。

(※1)…サービス活動収益・約4億2000万円＋サービス活動外収益・約500万円

(※2)…サービス活動費用・約4億3900万円＋サービス活動外費用・約500万円

次に当該差額に特別増減差額(マイナス約500万円)を加算した当期活動増減差額はマイナス約2300万円となり、更に国庫補助金等特別積立金のマイナス約1400万円と合わせて、純資産は前年度からマイナス約3700万円の約10億900万円となりました。

前年度に比べ、収益はプラス約1400万円(※3)でしたが、費用が人件費の伸びと事業の再編成によりプラス約2600万円(※4)となり、経常増減差額は前年度のマイナス約600万円から更にマイナス約1200万円という厳しい収支になりました。

(※3)…収益増の主な要因

【障害福祉サービス等事業収益】…プラス約1100万円

■サポートステーション…プラス約270万円

(主な要因) 生活介護／重度障害者支援加算・新規取得

■支援センター…プラス約810万円

(主な要因) 生活介護／利用者延人数増 重度障害者支援加算・支援増

就労継続支援 B 型／基本報酬区分(六)⇒(五) 利用者延人数増

【経常経費寄附金収益】…プラス約400万円

(※4)…費用増の主な要因

【人件費】…プラス約1400万円 【事務費】業務委託費…プラス約400万円

事業の再編成(消耗器具備品費、修繕費等)…プラス約800万円

資金収支計算では、予算(第二次補正)から収入が若干下振れしたこと等により、当期資金収支差額合計は予算に比べマイナス約100万円の約1億5200万円(対前年度マイナス約200万円)となりました。積立資産(退職給付引当資産を除く)は予算に基づく積み立て及び取り崩しを行い、約1億8300万円(対前年度マイナス約1500万円)となりました。

また、2019年度の算定において、社会福祉充実残額(再投下可能な財産)は生じなかったことから、社会福祉充実計画の策定は不要となりました。

《2019年度の算定》

①「活用可能な財産」…319,642,381 円

②「社会福祉法に基づく事業に活用している不動産等」…0 円

※計算の特例適用

③年間事業活動支出…422,907,749 円

社会福祉充実残額＝①－(②＋③) ≙ ▲103,260,000 円

2019年度決算資料(概要)

社会福祉法人 札幌この実会

■事業活動計算書

※本年度・前年度決算…100万円未満四捨五入 増減…10万円未満四捨五入

	本年度決算	前年度決算	増減
サービス活動増減の部			
収 益	4億20百万円	4億 6百万円	1450万円
費 用	4億39百万円	4億13百万円	2680万円
増減差額	▲19百万円	▲7百万円	▲1230万円
サービス活動外増減の部			
収 益	5百万円	6百万円	▲50万円
費 用	5百万円	5百万円	▲40万円
増減差額	1百万円	1百万円	▲10万円
経常増減差額	▲18百万円	▲6百万円	▲1250万円
特別増減の部			
収 益	0百万円	0百万円	▲0万円
費 用	5百万円	0百万円	400万円
増減差額	▲5百万円	0百万円	▲500万円
当期活動増減差額	▲23百万円	▲6百万円	▲1700万円

■貸借対照表

※100万円未満四捨五入

【流動資産】	1億65百万円	【流動負債】	14百万円
【固定資産】	8億95百万円	【固定負債】	38百万円
《資産合計》	10億61百万円	【純資産】	10億 9百万円

対前年度 ▲37百万円

■資金収支計算書

※予算・決算…100万円未満四捨五入 差異…10万円未満四捨五入

	予算	決算	差異
事業活動による収支			
収 入	4億28百万円	4億25百万円	210万円
支 出	4億23百万円	4億23百万円	▲30万円
収支差額	5百万円	3百万円	240万円
施設整備等による収支			
収 入	0百万円	0百万円	0万円
支 出	17百万円	17百万円	▲10万円
収支差額	▲17百万円	▲17百万円	10万円
その他の活動による収支			
収 入	31百万円	33百万円	▲180万円
支 出	21百万円	21百万円	▲10万円
収支差額	11百万円	12百万円	▲170万円
当期資金収支差額合計	▲1百万円	▲2百万円	80万円

支払資金	1億52百万円	対前年度 ▲2百万円
積立資産	1億83百万円	対前年度 ▲15百万円